

チタンで創る日本伝統の屋根

第2回ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞受賞

(株)カナメ/ルーフシステム(株) 代表取締役 **渡部 渉**
わた なべ わたる



外国からの観光客にも人気の浅草寺。右が2007年に改修を終えた宝蔵門。

日 本を代表する観光名所であり、東京都内最古の寺院である浅草寺。この本堂で約50年ぶりの大規模改修工事が現在進められている。その屋根に使われているのが「チタン瓦」。あえて色合いを変えたチタン瓦をランダムに配置することで、いぶし瓦特有のまだら感が生まれ、従来の瓦と見分けがつかない美しい外観となっている。チタンの屋根は、従来の粘土瓦の屋根に比べ、重さ約13分の1、耐久性も群を抜いている。反面その強度ゆえに、折り曲げ加工などが非常に難しく製品化が困難だった。その難題に挑戦し、鋼板メーカーと協力し、4年の歳月をかけて製品化を実現させたのが、渡部渉氏が代表を務める「ルーフシステム」。最新技術で伝統的な社寺建築に新たな生命を吹き込み、第2回ものづくり日本

大賞経済産業大臣賞を受賞した。

賞を受賞したのは2007年の浅草寺宝蔵門改修の時。屋根工事を含めたその出来栄えが高く評価され、本堂の改修にも採用された。「社寺建築は『荘厳さ』や『やすらぎ』を表現する建築。中でも屋根は繊細な稜線美や重厚さなど、建物全体の雰囲気を出す社寺建築の中でも最高の技術を要するといわれます。社寺の銅葺き屋根は技術者が銅板を一枚一枚叩いて製作してましたが、熟練工の減少による生産性や品質の低下が課題となり、私たちは工場の機械化を進め熟練工レベルの製品の量産化を実現しました。匠の技と最新技術を融合させることで互いを補完し、磨きかける事を目指しています。これは私たちが屋根の製造と施工の両方を行うことで積み重ねたノウハウの結果だと考えています。」と渡部社長は語る。

創業の地である会津は幕末期の受難を乗り越えながら自立の道を探り続け、会津漆器の金箔や蒔絵、陶磁器や桐製品など、地域の資源と感性をいかした伝統的な産業が根付いている地である。しかし企業は時代と共に変わらなければ衰退する。「伝統とは継承された技術をただ残すのではなく、その真の想いを後世に伝えていくことです。これからも私たちは、金属屋根という独自の土俵を軸に、太陽光発電や省エネ技術などの環境分野にも力を注ぎ、社業を通じ社会におおいに貢献していきたいと思っています。」伝統に真摯に向き合いながらも常に進化を見極めていくこと。創造的なものづくりには、それが不可欠なのかもしれない。



技術者の減少に伴い、工場での機械化をすすめる熟練工品質の量産化を実現した。



チタン瓦のサンプル



(株)カナメでは、太陽光発電などの環境分野にも力をいれている。



粘土瓦

チタン瓦



受賞した 渡部 渉 代表取締役。

あえて色合いを変えたチタン瓦をランダムに配置することで、まだらに見える粘土瓦の雰囲気も再現した。

ものづくり日本大賞とは

わが国の産業と文化の発展を支え、国民の生活形成に貢献してきた「ものづくり」を今後も継承していくために、伝統的、文化的、先進的な技をもつ人材をひろく表彰するもので、文部科学省、通商産業省、厚生労働省、国土交通省によって平成17年に創設された。



(株)カナメ/ルーフシステム(株)

本社 栃木県宇都宮市
平出工業団地38-52

設立 1971年10月

資本金 4800万円

従業員 244人(関連会社含む)

事業内容 住宅屋根・外壁リフォーム、
大型施設の屋根工事、
施設の屋根リニューアル、
社寺建築・改修工事

電話番号 028-660-3831

http://www.caname.net

【販売・施工】(株)カナメ
【開発・製造】ルーフシステム(株)
渡部氏は代表取締役を兼任